
お帰りなさい。

小豆色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お帰りなさい。

【Nコード】

N4745BA

【作者名】

小豆色

【あらすじ】

教育現場は地獄。そんな所で頑張る教師二人のお話です。

「ただいま」

そう告げる彼の声が、やけに響いて聞こえる。

あまりの寒さに体を震わせながらも私は返事をする。

「お帰りなさい。今日はどうだった？」

「すごく大変だったよ。三平方の定理が分からなかったらしくてね、

授業中、頭を抱えて156ページの問題2を解いてたよ」

「私もそんな感じ。でも古文は難しいからな……。」

もっと分かりやすく説明できれば良いんだけどな」

彼を迎えて、二人で今日の報告をする。

私は国語教師。そして彼は数学教師だ。

同じ職場だけれど、一緒に仕事をすることは無い。

だからこうして今話し合うのだ。

「あれ、古文ならこの図を使えば良いんじゃないのか？

少なくとも中学ならこれで十分理解できるだろう」

「あ……。でもこれを使うと漢文のときに誤解しちゃうのよね」

教育現場は地獄だ。そう例えても違和感はない。

しかし、その疲れも彼と話していると消えてしまう。

笑みが零れる。幸せが生まれる。

まさに私の生きがいともいえる場所だった。

「さて、もうそろそろかな」

朝を告げる太陽の光が私たちの背後から降り注ぐ。
私は名残惜しそうにカーテンを見やると隙間から光が漏れ出していた。

「今日は私はお休み」

「僕は……一時間目に授業があるな」

彼と目を合わせると、お別れの挨拶を告げた。

「じゃ、頑張ってくるね」

「頑張ってるね。いつてらっしゃい」

私が手を振ろうとした時、不意に彼が宙に浮かんだ。

「急がないとっ!」

彼は勢いよく通学鞆に入れられた。急いだ様子の私達の持ち主は辺りを見渡し、

乱暴にその鞆を掴んで部屋を飛び出していった。

「あはは、相変わらずお寝坊さんね」

私に来てからいつもこの調子だ。少しは直そうと思わないのか。

まあ、教科書である私には関係の無いことかな。

「でも私達を大切に使うてくれるからね。全力でサポートしちゃうよ。」

二人とも、一日頑張ってるね」

お帰りなさいと言える時を心待ちにしつつも、私は本棚から

数学の教科書とその持ち主を見送った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4745ba/>

お帰りなさい。

2012年1月12日23時58分発行